

## 特集

# イワクラサミット 2010 in 上毛 報告

—主としてシンポジウムの紹介—

イワクラ(磐座)学会理事 前田 豊



イワクラ学会の2010年全国大会が、10月16日(土)、17日(日)の2日をかけて、久しぶりに関東において開催されました。今回は、筑波山のイワクラ探訪の会でしたが、今回は、上毛三山麓でのイワクラに関するシンポジウムと巨石信仰を探るバスツアーをベースとした、総合的イワクラサミットでありました。

その概要は以下の通りですが、本報告では主として、10月16日のシンポジウムの紹介を分担して行い、バスツアーによるイワクラ探訪報告は他の方にお任せしております。

### 1. イワクラサミット・シンポジウムの概要

テーマ：イワクラサミットin上毛—  
上毛三山と巨石信仰—

日時：2010年10月16日(土)  
13:00～16:30

会場：榛名文化会館エコー 小ホ

ール



### プログラム

(1) イワクラ学会総会(会員の  
み) 12:00～12:40

(2) イワクラサミット

13:00～(参加者合計約70名)  
司会：イワクラ学会理事・前田光久

#### ① 開会挨拶

イワクラ学会会長・渡辺豊和  
13:00～

## ② 基調講演

加藤碩一「石の美と神秘—その形と成因を探る」 13…05

## ③ 講演

江尻 潔「榛名神社の巨石」  
13…55

川島建二「地名に刻まれた石の信仰」 14…40

須田郡司「世界石巡礼の報告」  
15…20

④ シンポジウム 15…50

テーマ：「上毛三山と巨石信仰」  
コーディネーター：須田郡司、

パネラー：加藤碩一、川島建二、  
江尻 潔

## ⑤ 閉会挨拶

イワクラ学会理事・前田豊  
16…30

## (3) 懇親会

会場：榛名湖温泉レークサイドゆ  
うすげ 19…00

## (4) イワクラツアー

2010年10月17日(日)  
会員限定(参加者33名)

① レークサイドゆうすげ出発  
8…00

② 榛名神社 8…15

③ 産泰神社 11…30

④ 名草巨石群 13…00

⑤ 観音山古墳 14…30

⑥ 高崎駅解散 17…30

## 2. 基調講演



写真 基調講演者 加藤碩一氏

講演者：加藤碩一(かとうひろ)

かず、(独)産業技術総合研究所  
地質調査総合センター代表)  
テーマ：「石の美と神秘—そ  
の形と成因を探る」

日本人は石に親しみ、愛で、また  
畏敬の対象として崇めているが、本  
講演では、地質学的な観点で、巨石  
と石に注目し、自然が育んだ造形世  
界がどのようなものであるか、日本  
の石紀行をベースとして様々な例を  
紹介された。

まず、巨石の成因について取り上  
げ、岩石が火成岩、堆積岩、変成岩  
に分類されること、そこで様々な形  
態の巨石が形成されること、火成岩  
は地下の深所でゆっくり冷却して大  
きな結晶をつくる「深成岩」と、浅  
いところで急激に冷却して出来る  
「火山岩」に分類されることが述べ  
られた。深成岩は塊状になり、火山  
岩は塩基性で粘性の低いものは流れ  
やすく広く板状になる。堆積岩は泥  
岩、砂岩、礫岩などに分類され、変  
性岩は既存の岩石が熱や圧力を受け

て変性したものである。層状をなし、  
レンズ状や塊状にもなる。変性岩は  
薄く剥けたり砕けたりする。

また断層や褶曲により変形を起こ  
し、分断され、風化浸食によって削  
られたり溶かされたりして、様々な  
形の巨石が生成する。これらの生成  
時期についても紹介された。

節理は、岩石中に発達する割れ目  
の一種で、板状節理、柱状節理など  
があり、様々な奇岩を形成する。

日本の各地にある天の岩戸と言わ  
れる巨石構造物もこのような要素が  
組み合わさって生成したものである。  
自然の作用による巨石や石の造形  
がなされる一方、人為的に加工した  
り、運び集めたりする場合もあり、  
自然の造形と紛らわしいものもある。  
このような各種の造形作用によつ  
て造られた、石の造形美の例として、  
数々の日本各地の巨石群について、  
プロジェクト写真映像を用いて紹  
介された。

また、参考となるレジメも用意さ

れ、日本列島に存在する巨石についての基本的な知識とその存在状態が、効率よく理解できる講演であった。

### 3. 講演の概要

る榛名神社は巨石に囲まれている。最近参拝客がふえている榛名神社の由来を述べ、榛名の巨石、龍神信仰、次いで榛名の名称、その発祥、信仰などについて紹介された。

まず榛名神社は、聖徳太子のお父さんである用明天皇のころ（585年）の創建で、その本殿の後ろにそり立つ「御姿岩」は信仰の対象となっていた。形は座った人型で、高さは20〜30mあり、その下にある洞穴の中に本殿がある。本殿に入る事が出来るのは60年に一度で、宮司さんが扉を挿げ替えるためにはいることができたが、明治3年に神仏分離を行った新居守村という人が入ったところ、弥生時代の甕が6つと壊れた瓶が2つあり、そこに神さまの足跡がついていた。近くの子守山には社殿が火事になったとき、ご神体に移されたことがあるが、コノハナサクヤ姫とその御子神の足跡があるなどの伝説がある。

神社周辺の巨石としては、御姿岩

のほか、ぬぼこ岩という灯籠のような岩、つづら岩、犬神岩、腰掛岩など36の岩があり、弥陀窟という洞穴や、朝日岳、夕日岳という山が存在した。そこに平安時代に修験者の行場がつけられていたという。

榛名という名称は、榛野（はりの）から来ており、もとは敵つ穂（伊香保）である。弥生時代、古墳時代の豪族を経て、平安時代に修験道が持ち込まれ、新しく再興された神社だと思われるが、古代には藤原不比等の母親の車持氏が関係しているという。

榛名神社の信仰の発祥は、相馬山にある黒髪神社の龍神（高オカミ）信仰が元になっている。ご祭神は、火産霊神と、埴安毘売神を含めて12種の神々である。水神は祀られていないが、万年泉があり、これは榛名湖の神となっている。龍神信仰と龍の依り代としてのイワクラ信仰が榛名神社の根底にあると考えられるとの話をされた。



写真 講演者 江尻潔氏

(1) 講演：江尻潔（えじりきよし、足利市立美術館勤務 学芸委員）  
テーマ：「榛名神社の巨石」

今回の巨石ツアーで最初に訪問す



写真 講演者 川島健二氏

(2) 講演：川島健二（かわしまけんじ、柳田国男研究会会員、邑楽町文化財保護調査委員）  
テーマ：「地名に刻まれた石の信仰」

石の信仰が日本に根付いていることについては、日本の国歌「君が代」

に「ざざれ石の巖となりて・・・」と  
うたわれてところにも表れている。  
この歌は、日本の「古今集」に載っ  
ている歌から来ているが、一寸違っ  
るところは、「わが君」とあることで、  
これは天皇を表すものではない。た  
だ、ざざれ石が巖となるということ  
は、実際にありうることである。

巨石の話に先だって、(小さな)石  
と柳田国男の民俗学について話をす  
すめられた。柳田国男の「石神問答」  
「遠野物語」は石から始まっている。  
「シャクジ」という地名は、最終的  
には石神からきており、民間の小さ  
な神々を表している。元は、裂く、  
分けるということばかりきており、  
境界を分ける神で道祖神、塞の神な  
どとなった。

群馬の小字で多いのは、清水、窪、  
十二様などがある。鬼石なども(神  
体石であるが地名になっている。こ  
れらは縄文時代から伝わるものであ  
る。石が神であるとか石に神が依り  
つくと考えられてきた。

岩神もある。石の誕生の話があり、  
石は出現、出産、成長するとして、  
神の出現になぞらえられている。こ  
れらは、クラオカミから塞の神、道  
祖神、庚申様など日本のアニミズム  
の元になっている。

遠野物語に出てくる「続石(つづ  
きいし)」は、ドルメンに似た大石で  
ある。内藤正敏氏は、これは雪を使  
って組み立てたという説を立ててい  
る。来迎石は早池峰山の女神を迎え  
たイワクラと見られている。

最後に、上毛三山のイワクラの話  
があり、赤城山に櫃石(ひついでし)、  
榛名山に御姿石、妙義山に影向岩が  
ある。石の謎は宗教の謎が解ければ  
分かる、締めくくられた。



写真 講演者 須田郡司氏

(3) 講演：須田郡司(すだぐん  
じ、巨石ハンター、著書：日本石巡  
礼など多数)

テーマ：「世界石巡礼の報告」

Voice of Stone プ  
ロジェクト 世界石巡礼と地球の記  
憶を訪ねる、の一環で、2009年  
4月から2010年5月にかけて、  
実質10カ月の世界の巨石探訪を行

った。その結果を、写真、動画を用  
いて紹介された。

訪問したところは、世界40カ国  
で、115ヶ所の巨石遺跡である。

訪問順序は、

1) アジア。韓国、モンゴル、中  
国、ベトナム、ラオス、タイ、カン  
ボジア、インド、2) ヨーロッパ・  
アフリカ。トルコ、エジプト、エチ  
オピア、ギリシヤ、イタリア、フラ  
ンス、イギリス、アイルランド、オ  
ランダ、ドイツ、チェコ、スイス、  
ポルトガル、スペイン、3) アメリ  
カ、メキシコ、4) 中南米、5) オ  
セニアの順などである。

まず、世界石巡礼のダイジェスト  
映像(約3分弱)で、世界各地の特  
徴ある巨石探訪の動きある活動状況  
を紹介があった。

各地の特徴ある巨石の紹介として  
は、

① アジア：信仰との関わり。エー  
ジハド(モンゴル)、仁王山(韓  
国)、丹霞山(中国)、

② ヨーロッパ・アフリカ…人工的な石組。テИА遺跡（エチオピア）、ロシエオウフェーのドルメン（フランス）、カラニツシユのスタンディングストーン（イギリス）など。

③ アメリカ…自然地形、セドナ（アリゾナ州）、モニュメントバレー（ユタ・アリゾナ州）

④ 中・南米…奇岩、謎の石球（コスタリカ）、ピエドラ・デル・ペニョール（コロンビア）

⑤ オセニア…地球、エアーズロック（オーストラリア）など。

紹介量が多く、若干時間が押ししてしまったが、世界は巨大な石のテーマパークであったとの結論の通り、興味ある世界の巨石の紹介であった。

#### 4. シンポジウム



写真 シンポジウムパネラーの各氏

テーマ：「上毛三山と巨石信仰」

コーディネーター…須田郡司

パネラー…加藤碩一、川島建二、

江尻 潔

須田…まず、上毛三山の歴史的な面に関して、加藤氏の意見をお聞きしたい。

加藤…上毛三山に関する安中市発行

の書籍はよくまとまっているので、お読み頂きたい。上毛三山にはそれぞれ個性がある。一番古いのは妙義山である。妙義山は火山の地殻とみなされることがあるが、火山そのものではなく、火山噴出物（溶岩など）が堆積したものである。火山岩は500〜700万年前の火山活動でできたものが後で削られて、あのような形になった。

それに比べると、赤城山と榛名山は活火山と言ってよい。それぞれに特徴があり、両方とも確実なところでは、30年以上50万年前から始まった火山活動によるものである。妙義山より一けた若い。赤城山は、主要な山が出来た後、自然の浸食で削られ、火山瘤？ラハールができる。噴火活動は数万年前に終息したいわゆる死火山である。

一番新しいのは、榛名山で、50万年位前から活動が始まって、3

0万年位前から山体が出来上がり、20万年前に陥没してカルデラができ、4万数千年前に2回目の陥没がおこり、榛名湖のある榛名カルデラができた。地形学的には2重のカルデラからなっている。歴史時代にも噴火の記録が残されている。そういう意味で活火山であり、今後も噴火する可能性がある。しかし地形的にあの場所にあるので、人間に親しまれている。

江尻…榛名山について、いつも感じるのは、山の形の優しさである。伊香保ともいわれるが、母親のような感じがする。赤城山よりこの感じが感じられる。榛名山の山容を女性の体と見立てて紹介するところがある。絶えず宗教的な磁場を形成している。神聖なピラミッドと見立てられており、宗教的なもの、涅槃像などと見立てられる、また榛名を女神と見立てている。難行苦行を癒す力も働いている。妙義山は火の形をしている。天狗信

仰があり、上毛三山はそれぞれ人のこころを察知し、龍神を見せたり、精神的はたらきや、群馬の気風を形成している。

須田…私の実家の沼田には迦葉山（カシヨウザン）弥勒寺があり、日本一大きな天狗面が奉納されている。天狗の番付を行っている。天狗は山岳信仰と関係し、上毛三山の信仰を形成している。

江尻…天狗と龍のほか、鶴の飛来がある。群馬には鶴と日常生活がつながっている。日光山と赤城山が戦った伝説がある。むかでと蛇の戦いである。中国の道教の関係もある。

榛名山は、濟州島のハルラ山と関係があるという説もある。火山はハランと言われているので榛名とつながったという説や、ハコソ説などがある。コソは社を意味する。

加藤…上毛三山の共通性は、安山岩で出来ているということである。安山岩はアンデス山脈を形成し

ている。富士山は玄武岩でできている。ケイ酸の量の多さによって岩石がことなる。酸性のものが玄武岩になり、アルカリ性のものが安山岩になる。

須田…イワクラは信仰とつながっている。

加藤…巨石の定義をつくることをイワクラ学会のテーマにしてもらいたい。千曲川にさざれ石があり、小さな石が巨岩になることもありうる、など。

江尻…縄文時代から、高周波の音がして、それが脳に直接伝わり、神降ろしが行われている。岩笛は神降ろしに使われている。イワクラは耳に聞こえない高周波の音を出している可能性がある。

途中で、岩笛を吹いて、イワクラサミットの場が清められた。

加藤…海底火山の火山灰が、圭化し

てイワクラをつくることがある。法螺貝の音も意識を変えることがある。

上毛三山の成因や歴史、またこの山々がこの地方で、精神的、文化的に大きな役割を果たしてきたことがよく分かる。パネルディスプレイであった。

## 5. 懇親会

レークサイドゆうすげの大広間において、バスツアー参加者が全員集い、おいしい料理と美酒に酔いながら、イワクラ談義で大いに盛り上がった。

## 6. 記録者の所見

今回、訪問した榛名神社は、神社略記（由緒書）を見てみますと、ニギハヤヒ命と御子・ウマシマジ親子が、榛名山中にカムロギを立てて、天神地祇を祭ったことを始めとする、と書かれている。つまり、物部氏の祖の祭場であったと思われる。上

毛は、物部氏の集団配置されたところのようである。

実は、小著「徐福王国相模」で記載しているが、物部氏は徐福集団の一部を形成していたらしい。そして、小生が在住している秦野市や大山・丹沢とは大きく関係しているように思える。徐福集団は、秦氏を名乗ったと伝えられているが、榛名の字の中にも「秦」の字が入っている。

日本の重要な祭祀場やイワクラは、徐福集団が関与しているという確信を強めたイワクラ探訪のツアーでした。

また、来年、皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。お元気で！

了